

# アスリートに対する機内サービスに関する研究

## A study on the in-flight service for athletes

1K10C191 坂本彩

指導教員 主査 平田竹男 先生 副査 中村好男 先生

### 【背景】

多くのアスリートが国際大会に参加しているが、渡航手段として利用される航空機の機内環境は地上と異なるため、機内でコンディションを崩す選手は少なくない。今後、東京オリンピック開催に向け、アスリートを支える立場としての国内航空会社のサービスが期待される一方で、国際線利用客の増加に伴い各航空会社同士の競争は激化しており、機内サービスは続々と一新されている。これまで、機内でのコンディショニングに関する研究もなされているが、そこでは留意点が述べられているだけであり、航空会社が行うべきサポートに関して述べられた研究はない。

### 【目的】

機内サービスに対してアスリートが抱える不満や要望および航空会社の現状を明らかにし、アスリートに特化した新しい機内サービスを提案することを、本研究の目的とする。

### 【方法】

本研究を進めるにあたり、以下の2つの調査を行う。

実態調査Ⅰ：早稲田大学競走部部員9名、スキー部部員2名、スキー部卒業生1名、オリンピック選手3名の合計15名に対するアンケート。質問内容は、機内でのコンディション、機内での過ごし方、機内での飲食に関する質問および、アスリートの要望を聞く質問である。

実態調査Ⅱ：国内大手航空会社関係者1名に対するインタビュー。質問内容は、「アスリートは一般のお客様と同じサービスを受けているのでしょうか?」、「アスリートの為に特別に行っているサービスはあるのでしょうか?」、「客室乗務員がアスリートに対する対応で気を付けていることはありますか?」、「これまでにアスリートの方から機内で受けたご要望はありますか?」、「客室乗務員からアスリートに対して機内での過ごし方に関してのアドバイスはありますか?」という5つである。

### 【結果】

実態調査Ⅰの結果、機内で身体に違和感を覚えた経験がある選手は多く、機内でコンディションを崩し、試合結果に影響が及んだ経験がある選手も数名いた。機内での過ごし方では、基本的なコンディショニングを行っている選手は多いことが分かった。しかし、機内での飲食に関しては、ほとんどの選手が調整をしていないことが

分かった。航空会社に対する要望では、機内食およびアメニティに関する要望が多く見られた。

実態調査Ⅱの結果では、航空会社は、基本的にアスリートに対しても一般のお客様と同様のサービスを行っており、アスリートは自己管理が出来ているという信頼を置いていることが分かった。

### 【考察】

実態調査Ⅰの結果、機内におけるアスリートの自己管理には限界があるといえる。しかし、実態調査Ⅱの結果より、航空会社は機内でのコンディショニングをアスリートの自己管理に任せている。

したがって、アスリートの自己管理をサポートする機内サービスとして、以下の2つを提案する。

1つ目は、競技別メニューであり、主食・主菜・副菜・牛乳・果物の5項目が揃っており、補食を申請することも可能な『アスリート食』である。これは、チケット予約の際に希望者のみ申し込むことができ、チケット発券時には、カウンターにて大会要項を提示することが必要となる。搭乗券には、機内食提供のおおよその時間が記載され、機内食提供時には、栄養成分表とアスリート食に関するアンケートがついてくる。アンケート回答者には、スポーツドリンクがプレゼントされる。

2つ目は、主要国際総合競技大会5大会参加選手に対し、アスリート専用シートを設け、アメニティとしてマットレス、ブランケット、スリッパ、アイマスク、湿ったガーゼ付きのマスク、アスリート食を用意するという『アスリート応援パック』である。航空会社はJOCに申請フォームを送り、JOCが申請フォームより希望者の分をまとめて申請する。

### 【結論】

機内でコンディションを崩す選手は多く、自己管理には限界があり、アスリートは機内食やアメニティに不満を抱いている。しかし、航空会社の現状として、アスリートに対しても一般のお客様と変わらないサービスを行っており、アスリート自身の自己管理に任せている。そこで、アスリートに特化した新しい機内サービスとして、『アスリート食』、『アスリート応援パック』の2つを提案する。